

第1章 理念・目的

(1) 現状説明

点検・評価項目①：大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

評価の視点1：学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容

評価の視点2：大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

金城学院の歴史は、米国人女性宣教師であるアニー・ランドルフにより、1889年に創設された女学専門冀望館に始まる。以来、本学院は、130年の長きにわたり、福音主義のキリスト教に基づいた全人的な女子教育を展開してきた。そしてその建学の精神は、1970年に、近藤武一副学院長（翌年、理事長兼学院長就任）によってまとめられた「学院教育の三本柱」——「①福音主義キリスト教にもとづく女子教育」「②全人的な一貫教育」そして「③国際理解の教育」——においてもっともよく表現されている（資料1-1、32頁）（資料1-2【ウェブ】）。

金城学院大学は、こうした建学の精神を高等教育の分野において実現するために、1949年に英文学部の単科大学として設立された。現在では5学部・2研究科を擁し、優秀な卒業生・修了生が輩出する総合大学として、東海地区における代表的な女子大学へと成長している。

この「学院教育の三本柱」に象徴される建学の精神を受けて、本学学則第1条には、「本学は、福音主義のキリスト教に基づき、学校教育法にのっとり、女性に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、もって真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する人物を養成することを目的とする。」と、その目的が明記されている（資料1-3【ウェブ】）。こうした目的のもと、各学部・学科においては、「教育研究上の目的」を定め、おのおのの専門性に基づき、現代社会において活躍できる女性を育成する教育を展開してきた。

具体的には、文学部では、「日本語あるいは外国語または音楽演奏」を通じた「言語運用能力や自己表出力、芸術的表現力」を有した人材を、生活環境学部では、「人間と環境をめぐる生活の諸課題」を「学際的、総合的」に究明・解決する実践的な能力を有した人材を、国際情報学部では、「国際化、情報化に関する専門的な知識と技能」を有し、現代社会における諸問題の解決に取り組める人材を、人間科学部では、「発達する存在」「心理

第1章 理念・目的

的存在」「支えあう存在」の3つを人間理解の中核に置き、現代社会のなかで自律的に生きていける人材を、薬学部では、「高いコミュニケーション能力」を有した「専門性の高い薬学ジェネラリスト」として、地域社会並びに医療現場で信頼される人材を育成することをその目的としている（資料1-4【ウェブ】）。

また博士課程（前期課程・後期課程）においても、この「学院教育の三本柱」を踏まえつつ、高度な職業専門人や教育研究者を養成すべく、「金城学院大学大学院学則」（第1条）には、その目的を「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、広く文化の進展に寄与すること」（資料1-5【ウェブ】）と明記している。そしてこの目的を実現すべく、文学研究科では、「言語、文化、社会」の領域を対象とした教育研究を通し、現代社会の諸問題に対応できる「広い視野と高度な専門性」を、また人間生活学研究科では、「人間生活を物質的、精神的、社会的に充実発展させるための研究、実践」を担いうる能力を修得することをその「教育研究上の目的」として定めている（資料1-5【ウェブ】、別表I）。

以上のように、本学では、大学をはじめ学部・研究科における理念・目的を適切に設定していると判断するものである。

点検・評価項目②：大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

評価の視点1：学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
評価の視点2：教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

大学および大学院の理念・目的については、「金城学院大学学則」（資料1-3【ウェブ】）および「金城学院大学大学院学則」（資料1-5【ウェブ】）の第1条にいずれも明示されており、また各学部・研究科における教育研究上の目的は、おのおのの学則「別表I」に明示されている。またこれらは、本学ウェブサイト（資料1-6【ウェブ】）や学生ハンドブック『プランタン』（資料1-7【ウェブ】、41頁）等に掲載し、学生・教職員および学外に対してその周知を図っている。

こうした理念・目的に対する理解を、学内外において深めるための取り組みは、種々の機会を通して実施している。学生に対しては、共通教育科目に建学の精神を学ぶ「金城アイ

第1章 理念・目的

デンティティ科目」(資料 1-8【ウェブ】)を設け、とりわけ必修科目として「キリスト教学(1)」(資料 1-9【ウェブ】)・「キリスト教学(2)」(資料 1-10【ウェブ】)を開講している。また日々の礼拝(資料 1-11【ウェブ】)をはじめキリスト聖誕祭(資料 1-12【ウェブ】)などを通して、大学の理念・目的を学ぶ機会を設けている。これに加え、2019年度には必修科目として「女性みらい」を設け、現代社会における女性の自己実現・キャリアモデルを知ることを通して、本学の理念・目的を理解する場を設けている。

各学部においては学科ごとに初年次教育として「入門」「概論」や「基礎」を冠した講義・演習が設けられ、これらを通して各学科の目指すところや特色を学ぶことができるようになっている。たとえば、国際情報学部国際情報学科では、入門的な講義科目である「国際情報概論」(資料 1-13【ウェブ】)と協調的な学修を行う演習科目としての「WLI A」(資料 1-14【ウェブ】)・「WLI B」(資料 1-15【ウェブ】)を組み合わせることで、学科 DP に掲げられている「協調的リーダーシップ」の育成という課題を学生に理解させている。

教職員に対しては、毎年度「大学教員キリスト教セミナー」を実施し、「福音主義」を初めとする建学の精神についての学びを深める機会を設けている(資料 1-16【ウェブ】)。また、新任教職員に対しては、新任者オリエンテーションを開催し、学院宗教総主事から建学の精神や理念・目的等を周知している。

社会に対しては、本学ウェブサイトにおいて建学の精神(資料 1-17【ウェブ】)やその実践活動(資料 1-18【ウェブ】)について広報し、また学院創立 130 周年・大学設立 70 周年を迎えた 2019 年度に、『金城学院 創立 130 周年史』(資料 1-1)を作成し、これを頒布するなどその情報発信を展開している。このほか 2009 年度より、『「車内の金城学院大学」シリーズ』(資料 1-19【ウェブ】)と題する電車内広告を通して、本学の教育・研究活動の内容を広く一般の方々へと伝えてもいる。また受験生に対しては「金城学院大学 受験生応援サイト Lily Navi」(資料 1-20【ウェブ】)を開設し、受験情報にとどまらない情報提供を進めている。

このように、本学では、大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を適切に明示し、教職員および学生に周知するとともに、社会に対して公表していると判断するものである。

点検・評価項目③：大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

評価の視点1：将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定

本学は設立70周年を控えた前年の2018年度に、「金城学院大学 VISION 2030 —10年後、さらに輝く大学になるために—」（資料1-21）を策定し、「福音主義キリスト教にもとづく女子教育」「全人教育」「国際理解の教育」という「学院教育の三本柱」に基づき、変化の著しい時代における社会の要請に応えうる大学としてあり続けるために、教育・研究・地域共生および環境整備に関して、2030年までに目指すべき大学像を提示した。さらに2019年度には、学院創立130周年にあわせ『金城学院中期計画（2020年度～2024年度）』（資料1-22【ウェブ】）が策定され、これに基づいて本学では「教育研究の推進と学習支援」「地域社会との共生」「環境整備」の三分野におけるアクションプランが設定され、2020年度より実施されている。

こうした現状を踏まえ、本学は、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定していると判断するものである。

（2）長所・特色

金城学院は「主を畏れることは知恵の初め。」（『旧約聖書』「箴言」1章7節）をスクールモットーとしている（資料1-23【ウェブ】）。「知恵」すなわち学術を探究する究極的な目的は、キリスト教的な世界観・価値観に立脚した精神の涵養にこそあると考え、本学は、「強く、優しく。」（資料1-24【ウェブ】）を教育スローガンとして掲げて、その教育・研究活動を展開している。これまでも、こうした理念に基づき、「全人教育」を強化し、「女性教育」を推進し、またそして「国際理解」を充実させてきたところである（資料1-1、52～56頁）。

本学では、単に学術のみを授けるのではなく、人間存在全体に対する本源的な在り方を——とりわけ女性というジェンダーを自覚したうえで——探究することを目指している。それは学生各人が、いのちの源である神と人への愛をもち、多様化する世界や社会に積極的に関わることのできる人材を養成することにほかならない。こうした建学の精神・理念に立脚し、教育・研究を推進している点が本学における長所・特色であると言える。

第1章 理念・目的

(3) 問題点

本学の公式ウェブサイトにおいては「建学の精神」や「教育研究上の目的」を公表しているものの、受験生向けの大学案内（資料 1-25）や入試情報ウェブサイト（資料 1-20【ウェブ】）においては、必ずしも十分に提示されていない。ただし、教育スローガンである「強く。優しく。」やスクールモットー「主を畏れることは知恵の初め。」については、大学案内において詳説している（資料 1-25、162 頁）。今後は、こうした基本情報へのアクセスがより容易になるよう、これら案内・要項の構成を検討すべきであろう。

(4) 全体のまとめ

本学は、「学校法人金城学院寄附行為」（資料 1-26【ウェブ】）に記された学院の目的に基づき、福音主義キリスト教の精神に基づいた全人的教育を通して、真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献する女性の育成に努めてきた。それは、本学のルーツであるアメリカ人宣教師アニー・ランドルフが、1889年に金城学院を創立して以来の理念に基づくものでもあり、キリスト教精神に基づく女性解放の営みでもあった。今日の日本社会における女性の地位は、学院創立あるいは、本学設立（1949年）の当時に比すれば、相応に向上したと言うこともできるが、しかしなおその道半ばと言わざるをえない。こうした現状に対し、本学は、今後も女子高等教育機関としての社会的役割をしっかりと自覚し、建学の精神や理念を堅持しつつ、掲げられた「教育研究上の目的」を実現すべく努めているところである。

以上のことから本学は、建学の精神や理念に基づき、「教育研究上の目的」を適切に設定・公表するとともに、その実現のための中・長期の計画や諸施策を策定・実施していると判断するものである。